

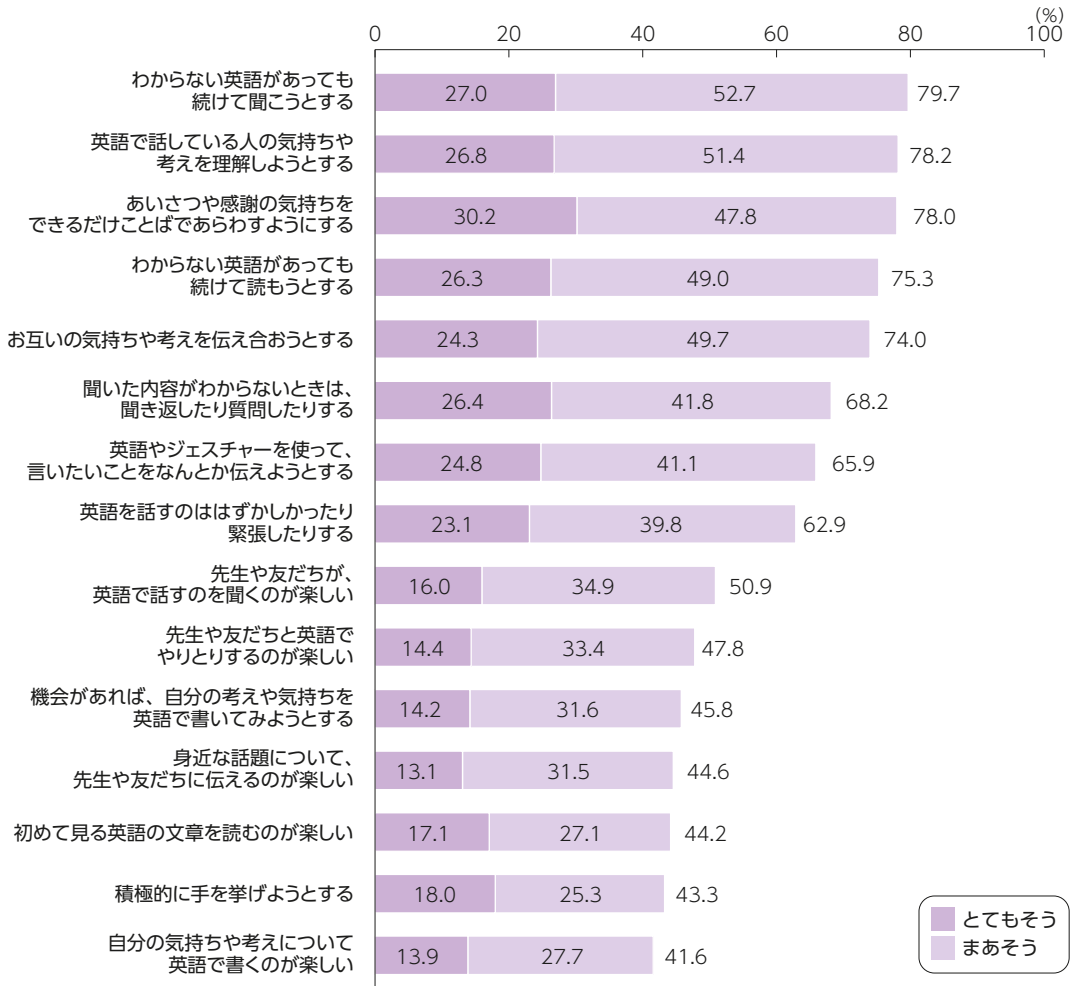
1-1 英語の授業における関心・意欲・態度

英語の授業で「お互いの気持ちや考えを伝え合おうとする」は7割以上

「わからない英語があっても続けて聞こうとする」や「英語で話している人の気持ちや考えを理解しようとする」など、英語の授業において積極的に取り組もうとする意欲がみえる。

Q 学校の英語の授業では、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

図1-1 関心・意欲・態度



* 外側にある数値は「とてもそう」+「まあそう」の%。

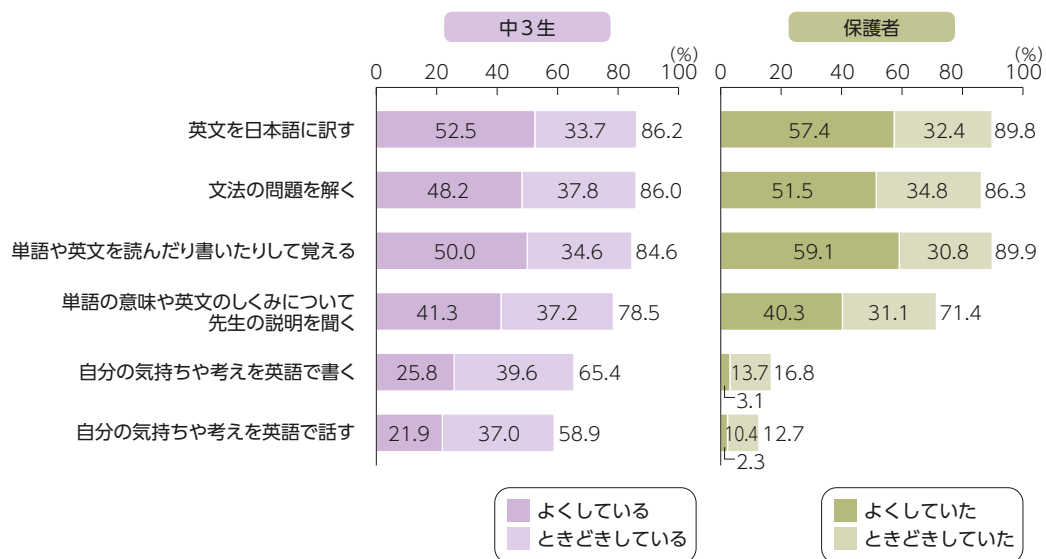
1-2 英語の授業でしていること

英語の授業で「話す」「書く」活動は、保護者世代よりも多い

英語の授業で、「気持ちや考えを英語で話す(よく+ときどきしている)」「気持ちや考えを英語で書く」という活動はそれぞれ6割前後。一方、保護者世代のそれらの活動は1割台。

Q 学校の英語の授業の中で、次のようなことをどれくらいしていますか。

図1-2 授業でしていること



*外側にある数値は「よくしている」+「ときどきしている」の%。

*保護者は、「あなたが中学生や高校生だった頃、学校の英語の授業の中で次のようなことをどれくらいしていましたか」という問いに対する回答。

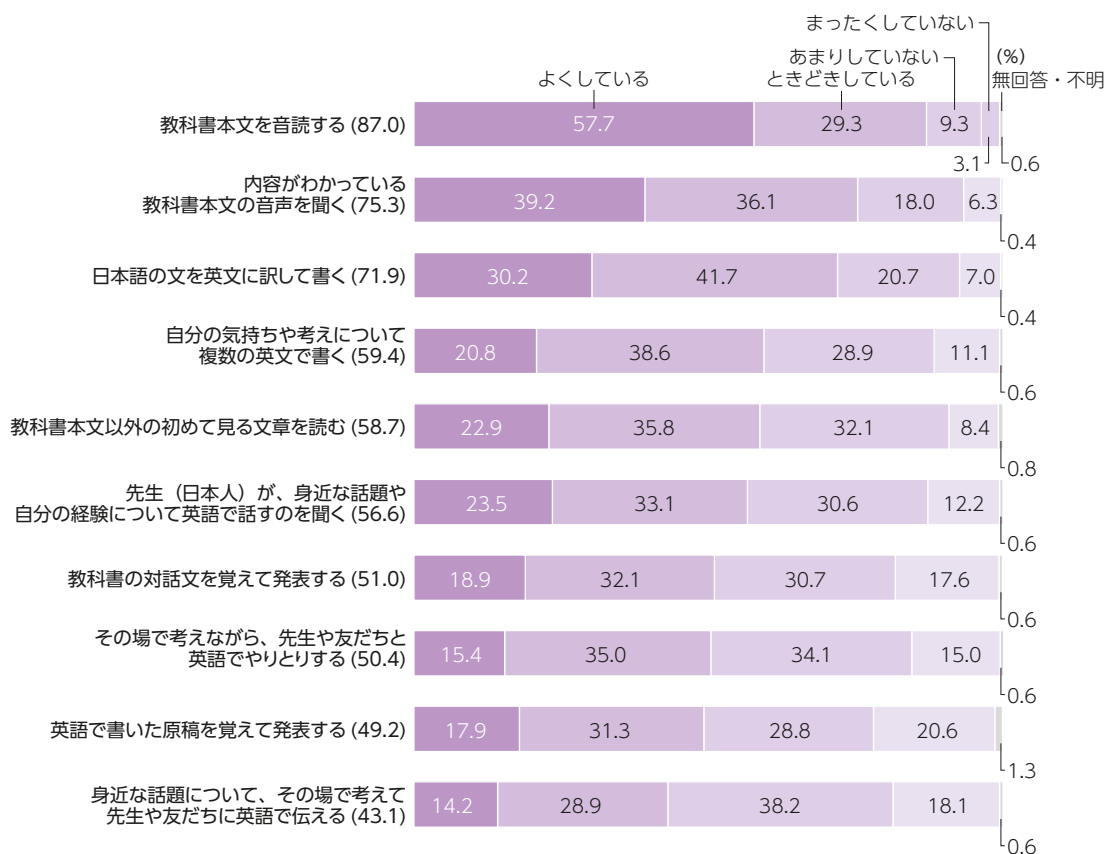
1-3 英語の授業での活動

英語の授業での活動は、「教科書本文を音読する」がもっとも多い

「教科書本文を音読する」は8割以上、「内容がわかっている教科書本文の音声を聞く」「日本語の文を英文に訳して書く」は7割以上が「している(よく+ときどき)」と回答。

Q 学校の英語の授業の中で、次のようなことをどれくらいしていますか。

図1-3 授業での活動



* ()内の数値は「よくしている」+「ときどきしている」の%。

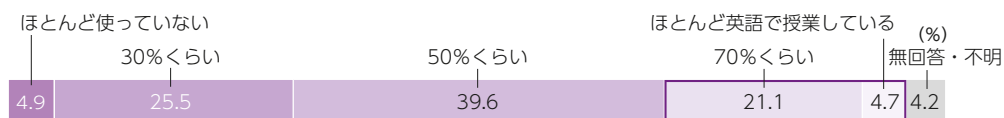
1-4 先生の英語使用割合と働きかけ

先生の4人に1人は、英語を7割以上使って授業をしている

英語を7割以上使って授業を進めている（「70%くらい」+「ほとんど英語で授業している」）先生は4人に1人。授業での先生について、「英語で話していることを一生懸命聞いてくれる」「英語で言ったことに対してGood!やOK!と言ってくれる」「授業中の先生は楽しそうだ」は8割台。

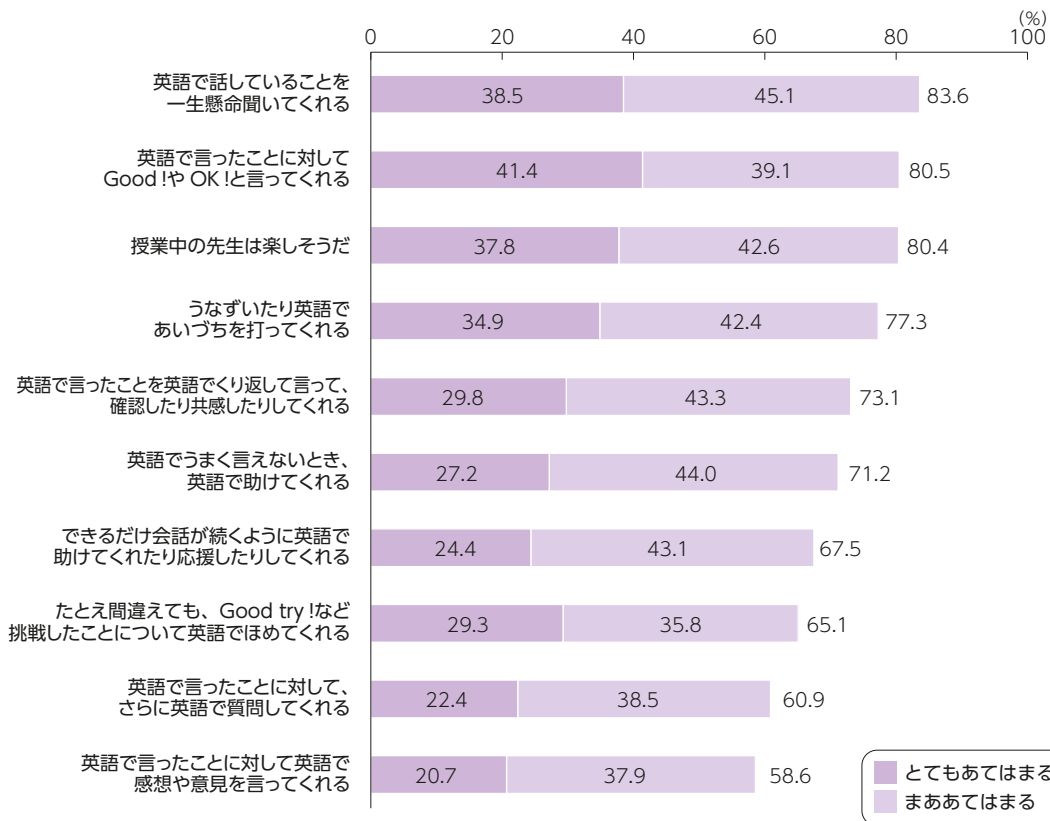
Q 英語の授業で、日本人の先生はどれくらい英語を使って授業を進めていますか。

図1-4 先生の英語使用割合



Q 授業での英語の先生(日本人の先生)について、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

図1-5 先生の働きかけ



*外側にある数値は「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

1-5 英語の得意・苦手と苦手を感じるようになった時期

中3生の約半数は英語が「得意(とても+やや)」と回答

英語の得意・苦手で「苦手(やや+とても)」と回答した中3生が苦手と感じるようになる時期は、「中1の前半」から「中2の前半」までがピーク。

Q あなたは、英語が得意ですか、苦手ですか。

図1-6 英語の得意・苦手



Q あなたが、英語を苦手と感じるようになったのはいつ頃からですか。

図1-7 英語を苦手と感じるようになった時期



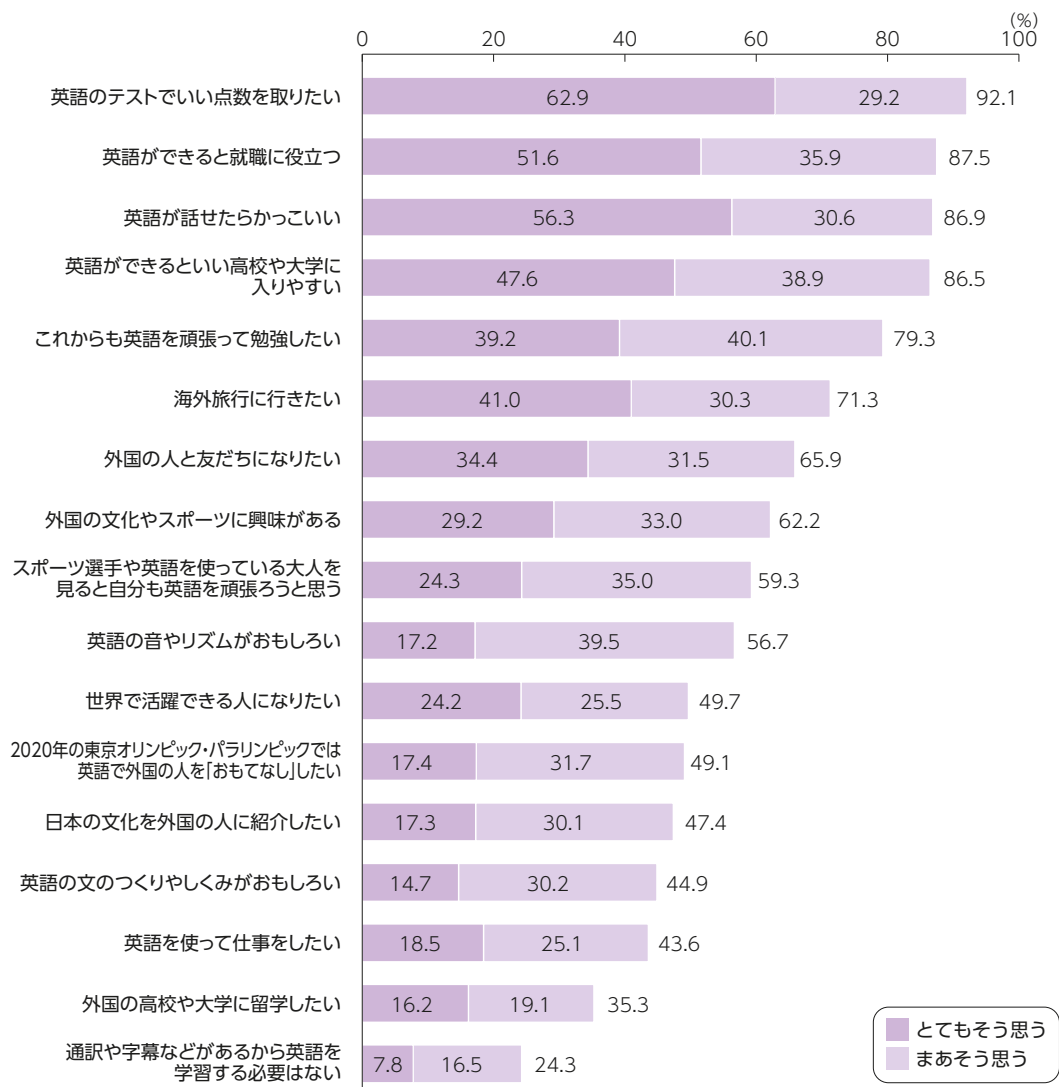
*英語の「得意・苦手」について「やや苦手」「とても苦手」と回答した486名のみ回答。

「これからも英語を頑張って勉強したい」が約8割

「英語のテストでいい点数を取りたい」に続き、「英語ができると就職に役立つ」「英語が話せたらカッコいい」「英語ができるといい高校や大学に入りやすい」と8割以上が感じている。「これからも英語を頑張って勉強したい」がそれに続く。

Q あなたは、以下のことについてどう思いますか。

図1-8 英語に関する意識



* 外側にある数値は「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

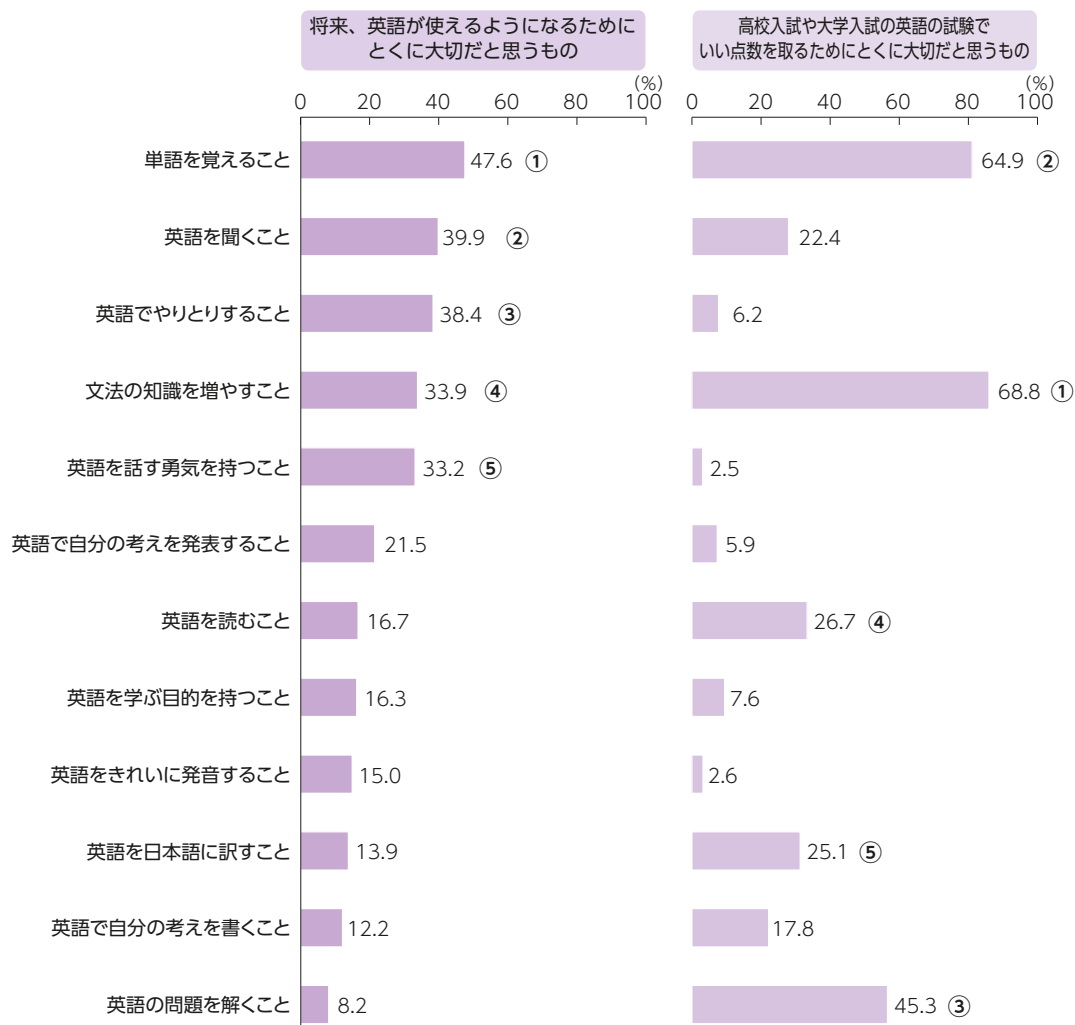
「英語が使えるようになるため」「入試でいい点数を取るため」に大切なこと上位5項目中共通するのは、「単語を覚えること」「文法の知識を増やすこと」

「英語が使えるようになるため」「入試でいい点数を取るため」に大切なこと上位5項目の中で共通するのは、「単語を覚えること」「文法の知識を増やすこと」。「英語が使えるようになるため」には、「英語を聞くこと」「英語でやりとりすること」「英語を話す勇気を持つこと」が挙がる。一方、「入試のため」には、「英語の問題を解くこと」「英語を読むこと」「英語を日本語に訳すこと」が挙がる。

Q

- ①将来、英語が使えるようになるために、どのようなことが大切だと思いますか。
②高校入試や大学入試の英語の試験でいい点数を取るために、どのようなことが大切だと思いますか。

図1-9 英語学習観



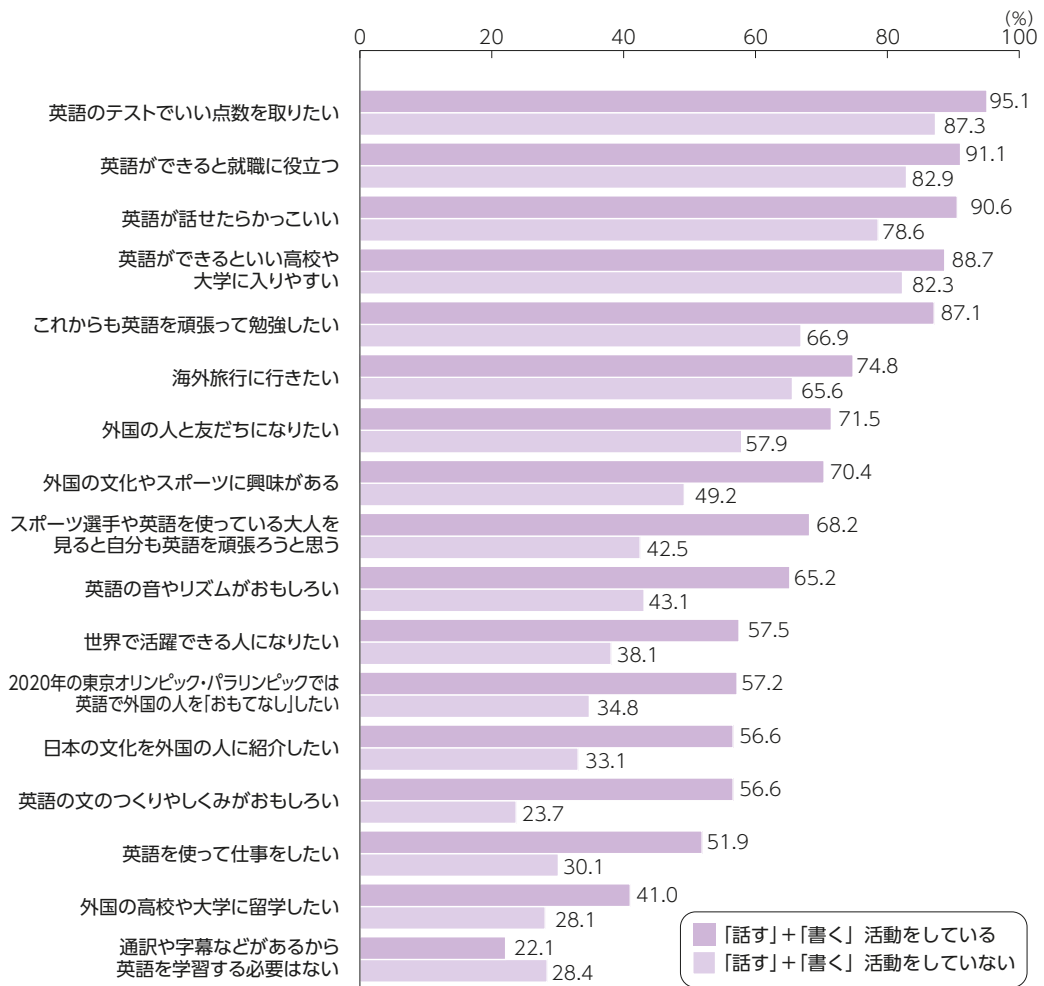
*それぞれ12項目中3つまで選択。

*それぞれ上位5位までを①～⑤と表示している。

「話す」「書く」活動をしている生徒としていない生徒で、意識に違いはあるか

学校で「話す」「書く」活動をしている中3生ほど、英語への関心や意欲が高い。

図A 英語に関する意識



*「学校の英語の授業の中で、次のようなことをどれくらいしていますか」という問いに対して、「自分の気持ちや考えを英語で話す」「自分の気持ちや考えを英語で書く」について、どちらも「している(よく+ときどき)」と回答した群を「話す」+「書く」活動をしている群(551名)、どちらも「していない(あまり+まったく)」と回答した群を「話す」+「書く」活動をしていない群(299名)として表示した。「話す」活動のみ、「書く」活動のみを「している(よく+ときどき)」と回答した群は省略した。

1-2で学校の「英語の授業でしていること」をみたが、そのうち「自分の気持ちや考えを英語で話す」「自分の気持ちや考えを英語で書く」活動の有無別に、英語に関する意識についてみた。

学校で「英語を使う」(「話す」「書く」)活動をしている生徒は、していない生徒より英語への関心や意欲が高く、とくに「英語の文のつくりやしきみがおもしろい」「スポーツ選手や英語を使っている大人を見ると自分も英語を頑張ろうと思う」「日本の文化を外国の人に紹介したい」などで差が大きい(差が大きい上位3項目)。

学校での「話す」「書く」活動の有無にかかわらず社会での英語の必要性は感じている。一方で、学校で「話す」「書く」活動をしている生徒はしていない生徒より、自分が英語を使うイメージを持っている。

図 B-1 社会での英語の必要性

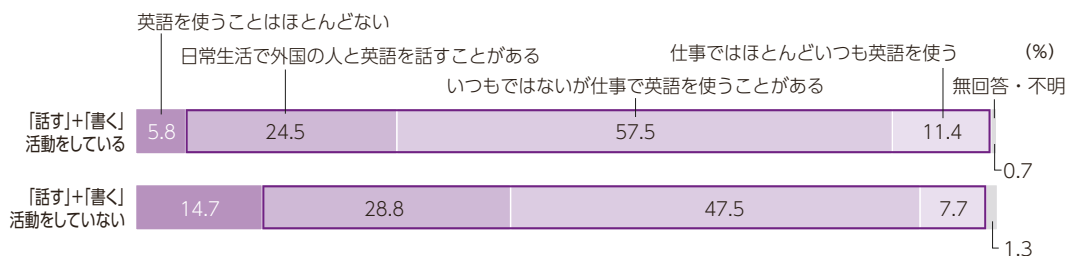
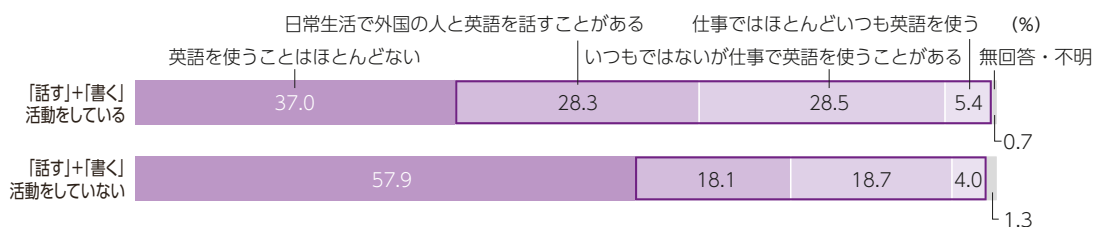


図 B-2 自分が英語を使うイメージ



学校で「英語を使う」(「話す」「書く」)活動をしている生徒はしていない生徒より、将来の英語の必要性を感じており、また、自分が英語を使うと考えている割合も高い。一方で、授業で「英語を使う」(「話す」「書く」)活動をしていない生徒の約6割は、将来、自分が「英語を使うことはほとんどない」という回答をしている。

以上のように、学校の授業で英語を使う活動の有無別に意識をみたが、英語に関する意識と関連があると考えられる。